

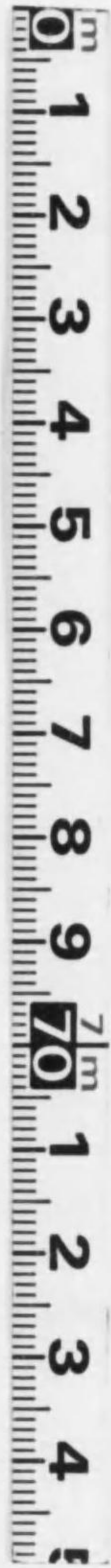
019.3
N.77
⑦

019.3-N77ㄅ



1200500724107

日本圖書館協會編
圖書館における
讀書傾向調査



始



圖書館における
讀書傾向調査

社団法人
日本圖書館協會編

019.3
N77

序

本協會は昭和六年七月以來社會教育的見地より優良圖書の推薦紹介を行ひ、一般讀書界のために聊か寄與し來つたのであるが、讀書指導の目的を達成せんがためには、一般社會人の要求に察し更に一段の努力を拂はねばならぬことは言ふまでもない。これ本協會が最も包括的にして精密なる讀書傾向調査を企圖した所以である。

今回先づ最初の試として東京市に於ける帝國、日比谷、駿河臺、京橋、深川、大橋各圖書館に依頼し、その入館者につき之が調査を行つたのである。勿論今回の調査はその範圍が限られて居り、之を以つて十分と云ふことを得ないが、とにかく都市に於ける讀書傾向の一斑を察知することを得、讀書指導に關心を有する人々に少からざる参考となることを信ずる。

終りに前記六大圖書館の御協力に對し厚く感謝の意を表すると共に、今後讀書傾向調査の困難なる事業に對して普く識者の御援助を冀つて已まない次第である。

昭和九年三月

社團法人 日本圖書館協會 理事 長

松 本 喜 一



目次

はしがき	一	圖書綜合調について	六
調査の目的	一	年齢期別・部門別觀察	九
調査準備	二	讀みたい圖書の觀察	一四
調査時日	二	文學書調について	一六
調査項目	二	現代文學分類別調	一七
調査人員調について	四	愛讀雜誌調について	二〇
性別調	四	雜誌綜合調	二三
年齢別調	四	雜誌個別調	二四
職業別調	五		

図書館における讀書傾向調査

278-210

はしがき

讀書傾向の調査は、弘く讀書層一般について行ふべきこと勿論である。日常多忙な職務に従事するものは、讀書を好むものと雖も、多くは餘暇を自宅における讀書に割くのであつて、圖書館を利用することは稀である。されば圖書館における讀書傾向の調査は、由も圖書館を利用する特殊一小部分の人々に限られ、その結果に多くを期待することは出来ない。殊に女子については、一般に讀書の興味乏しきに加へて、その餘暇さへも少い状態にあるがため、圖書館入館者の僅少なことは當然であり、それらの人々について調査を行ひ、女子讀書層の傾向を察知することなどは、殆んど不可能に近いのであるから現在においては、圖書館調査はそれほど多くの意義を有するものではないと考へられるかも知れないが、單に現状の一端を窺知するといふ意味においても必要なことであり、かつまた學校・青年團・青年訓練所等々この種の調査を便とする諸機關と並んで、讀書の特殊機關たる圖書館を利用して、この種の實際調査を行ふことには、多くの便宜があり、また相當の價値があるとおもはれる。

調査の目的

東京市内の主要圖書館入館者個人についてその讀書傾向を調査し、都市における讀書階級につき一典型を得て、その讀書傾向の一端を察知し、圖書推薦並に讀書指導のために一指針を得んと企てたものである。

調査準備

調査票八千枚を作製して、これを調査前日までに、帝國・日比谷・駿河臺・京橋・深川・大橋の六調査図書館に配布し、更に入館者の注意と協力とを喚起せんがために、趣意書を認めて、これを各館に配布掲示した。施行の結果、集つた枚数は入館者數五、一九〇に對して三、〇七八であり、その比率は五九・四%である。

調査時日

調査の時日を適當に考慮選定することは、成績に影響するところ甚大である。本調査は種々の事情により昭和九年一月二十四日一日の結果を以て満足せざるを得なかつた。おもふに一月下旬は學年試験を控へ、學生入館者の特に多い時期である。さなきだに學生入館者の多い都市の図書館においては、決して適當の時期とはいひ難く、調査期間ただ一日にすぎない本調査においては、殊にその偏倚を大ならしめたこと必定であるが、これまた止むを得ない。

調査項目

調査票に記載の調査項目は、次頁に掲げた調査票の雛形の如くである。それにつき無記名としたことは解答に自由な氣持を與へ、出来るだけ多くの收票を得んがためである。職業は自由記入による不明瞭・不統一を避けるために、本協會所定の統計第五様式「入館人員職業別構成」に基き、適宜考慮の結果利用したものである。内容を示す調査項目については、「愛讀書」によつて過去より現在に及ぶ讀書状況を察知し、これによつて思想の基底に横はるものを窺はんとしたものであり、「最近面白く(又は有益に)讀まれた圖書」によつては現在の興味を知り、思想の現状を窺ひ得んと考へたものであり、「讀みたいと思つてゐられる圖書」によつては思想の動向を窺ひ得やうとの考慮があつたのである。しかしながらこれは單なる基準であつて、調査の結果がこれに對して充分の解答を與へるものとは、固より所期し難く、事實調査の結果を見れば、この種の判断は到底下し得ないのである。

(調査票雛形)

このたび日本圖書館協會が讀書傾向の調査をいたしますので、お手數ですが左欄に御記入のらへ、お歸りのとき受付にお渡し下さいませやう、お願ひいたします。

昭和九年一月

圖書館

性別	業		職		年齢
	農業及水産業	農業及工業	農業者	無業	
	公務員	新聞記者、教育家、宗教家、	家事使用人	その他の有業者	
	自由業	官公吏、軍人	學生	軍門高等大學生	
	その他				

あなたの愛讀書	あなたの愛讀雜誌	あなたが最近面白く(又は有益に)讀まれた圖書	あなたが讀みたいと思つてゐられる圖書

註 1. 職業はあなたの職業に相當する所だけに○印をつけて下さい。
2. 本は一行に一種づゝ書いて下さい。
3. 圖書についてはなるべく著者名、書名を書いて下さい。

調査人員について

性別別調査

人数 百分比	性別別		合計
	男	女	
二、六五七 八六・三%	二、一六八 七九・六%	四、四二二 一・四%	一、三三五 四・四%
			性不明
			性年不明
			合計
			三、〇七八 一〇〇%

女子の僅少なること

図書館入館者男女のうち女の僅少なことは周知の事實であるが、調査人員について見ても、全員三、〇七八のうち男二、六五七に對し、女は二、一六八であり、その比率は男八六・三%に對し、女七・〇%にすぎない。女子には一般に讀書の餘暇及び讀書慾の乏しきことは、これによつて見るも痛感せざるを得ない。されば本調査は主として男子の調査となつたこともまた止むを得ないのである。

年齢別調査

人数 百分比	年齢別		合計
	少年期	青年期	
二、三三三 一七・三%	一、五六一 五五・三%	一、四九九 五・三%	二、六六六 九二・四%
			合計
			最低平均年齢
			最高平均年齢
			合計
			一、〇〇〇

青年期が最も多いこと

年齢別は本調査の性質に基き、少年團・青年團の規定及び實際を參照して、十八歳までを少年期とし、二十五歳までを青年期、二十六歳以上を成人期の三期に區別した。これによつて見れば、青年期が最も多く、調査人員の六〇・五%（男五五・二%、女五・三%）を占め、次に成人期の二六・五%（男二五・九%、女〇・六%）であり、少年期は僅に一三%（男一一・三%、女一・七%）にすぎない。尤も本調査においては、兒童部もしくは兒童室入館の少年を範圍外とした。最低平均年齢は男一四歳、女一六歳であり、最高平均年齢は男五七歳、女三〇歳である。

職業別調査

職業	職業別		合計
	少年期	青年期	
宗教家	一	一	二
教育家	一	一	二
新聞記者	一	一	二
公職者	一	一	二
公務員	一	一	二
軍人	一	一	二
その他	一	一	二
農業及水産業	一	一	二
鑛業及工業	一	一	二
商業及交通業	一	一	二
家事使用人	一	一	二
調査員	一	一	二
その他有業者	一	一	二
中等學生	一	一	二
専門・高等學生	一	一	二
無業	一	一	二
不明	一	一	二
調査員	一	一	二
合計	一〇〇	一〇〇	二〇〇

第三表ノ一 職業別百分比

職業	少年期		青年期		成人期		合計
	性別	百分比	性別	百分比	性別	百分比	
有業者	女	七・六	一六・一	六五・五	二八・〇		
	男	一〇・〇	〇・九	〇・七	〇・九		
學生	女	七・三	六四・七	一四・三	五二・一		
	男	二〇・三	六・四	〇・九	五・五		
無業者	女	〇・三	〇・七	二二・九	〇・七		
	男	〇・三	〇・九	〇・七	〇・七		
不明	女	一・五	〇・三	〇・三	〇・五		
	男	一・二	〇・四	〇・三	〇・三		
調査人員	女	100・0	100・0	100・0	100・0		
	男	100・0	100・0	100・0	100・0		

少年期・青年期には學生、成人期には有業者壓倒的に多いこと 職業別調については、項目それ自身に不備・不完全を發見するのである。例へば公務自由業なるものは主として有業知識階級を包含すべきものであり、會社・銀行員の如きは、本調査の性質上これに屬すべきものであるが、その別記なきため、商業及交通業に記入せるものかなり多いとおもはれる。本調査の目的とは別個の意義を有するとおもはれる協會所定の統計様式を採用せる結果、それは止むを得ざるものであつた。それ故、本調査においては有業者を一括して觀察することゝした。これによつて見れば、學生が絶對多數を占め全調査人員の五七・六％（男五二・一％、女五・五％）に上り、青年期について見れば、青年期全員に對し七一・二％（男六四・七％、女六・四％）を占めるに反し、成人期に至つて著しくその數を減じ、反對に有業者が増大し、成人期全員に對し學生一五・二％（男一四・三％、女〇・九％）、有業者六六％（男六五・三％、女〇・七％）の比率を示す状態である。なほ學生に關しては、受験生・高等小學生（極少）は便宜これを中學學生として取扱つた。

圖書綜合調について

各項解答の圖書の整理については、各館別に各項目につき、各年齢期男女について學生と有業者に分けて、分類整理を行

ひ、最後にこれを綜合した。

分類別 本調査における分類は、本協會選定圖書目録の分類を基礎とし、これを本調査の分類に便なる如く適宜改造して九部門に分けた。そのうち特に學習書なる一部門を設けたのは、一見して受験參考書もしくは學習用書と判るものをまとめ、他部門への影響を大ならしめず、分類の純粹性を幾分なりと強めんがための考慮によるものである。文學は最も多い率を占めること普遍的・恒常的の現象なれば、その純粹を保たうがために獨立のものとし、語學を配せざることゝしたのである。語學は主として學習用のものであり、特に言語學の如きは、種々の事情に照し、適宜の判断によつて文學に算入したのも若干ある。

分類數 數は書名により同種のものを一として算定した。従つて調査人員一名が二・三種に互る書名を解答せる場合あるにより、分類數は延人員を示すものとなる。

不明數 不明は解答を與へぬ調査人員と、解答あるも書名によつて審査するも、分類し難きものを含む數である。不明總數は分類總數に對し七一・二％（男六五・四％、女五・八％）の多きを示し、調査の不充分率を増大することゝなつたが、止むを得なかつた。被調査者の一層の注意と協力とを希はざるを得ぬ所以である。

解答に當つて最も混亂を來したものは愛讀書の項のやうである。多くは愛讀書なるものゝ判断を誤り、或は最近面白く讀んだ圖書と、或は學習用書と混同するもの多々あるを見受けた。それ故本調査は各調査項目別に觀察すべきでなく、三項目を關聯せしめ一體として見る方が、讀書傾向の具體性を保ち、その充分率を大ならしめるものと信じ、各項目別の統計を示さず、綜合觀察を表示することにしたのである。唯「讀みたい圖書」は興味の動向を指示するものなれば、特に抽出して觀察を試みることにした。

女三・九%)を占めて第一位に位するに反し、成人期に至つてその數激減し、その比率二四・一% (男二三・二%、女〇・九%)を占めて第二位に止つてゐる。

次に文學を青年期における學生と有業者について見るに、學生は分類總數の二八・三% (男二四・二%、女四・一%)を占むるに對し、有業者は三五・四% (男三二・七%、女二・七%)を占め、有業者に文學愛好者の多きことを示してゐるのは注意をひく。少年期における最も顯著なる特徴は、第九門學習書の多いことであり、その分類總數に對して一八・四% (男一八・一%、女〇・三%)を占め、文學に次いで第二位を示してゐる。そのうち、學生は一九・三% (男一八・九%、女〇・四%)、有業者は三一・七% (男)といふ何れも各年齢期を通じて最高の比率を示すことは、少年期には受験生の多いことを意味するものであらう。

次に各年齢期共通の著しき特徴は、第五産業部門の極少なることである。その比率僅かに〇・八%といふ最下位を示してゐる。有業者の最も多い成人期について見るも、その比率一・二%に止り、殆んどいふに足りない。この事實は商工その他の實務に携はるものも、實務につき實際知識を得んがために讀書することの少きことを實證するものとも考へられる。

第三部門は文學について多數を占め、その比率二一・四% (男二〇・八%、女〇・六%)を示してはゐるが、これによつていはゆる社會科學に關する興味の大なることを意味すると連斷するわけにはいかぬ。法律・經濟等に關しては、解答の書名について見て、また學生數の多いところより見ても、高文受験準備として閱讀するものが多いことを推知し得るのであるから、實質的にはこの數字のみによつてその興味の程度を判定することは困難である。(雜誌綜合調の項参照)

第四部門、自然科學の示す數の相當に多く、その比率一・六% (男一・〇%、女〇・六%)を占むることは注目し得るが、これとても實質的には、學生の示す%が特に大なるところより見て、學習用としてのもの多數を占むるが如く推知せられるが故に、自然科學に對する興味が大きいことは、これのみでは直ちに判定を下し難い。(雜誌綜合調の項参照)

第八部門の意外に少きことも注目に値しよう。その比率二・五% (男二・四%、女〇・一%)を占むるに過ぎない。蓋し運動・

第五表 學生綜合調

分類項目	少年期		青年期		成人期		合計
	男	女	男	女	男	女	
	愛讀書	面白かつた圖書	愛讀書	面白かつた圖書	愛讀書	面白かつた圖書	
第一、哲學・心理・倫理・宗教・歴史・傳記・地誌・紀行	八	一	八	八	一〇	一〇	三〇
第二、政治・法學・經濟・社會・教育・衛生	三	二	一	九	二	一〇	三〇
第三、醫學・工業・農業	二	二	一	九	二	一〇	三〇
第四、藝術・技藝	一	一	一	一	一	一	三
第五、文・學	六	一	七	一	一	一	一〇
第六、運動・遊戲・娯樂	一	一	一	一	一	一	三
第七、學習書	九	一	八	一	一	一	一〇
合計	一三	三	一七	一七	一六	一七	三〇
各年齢期の分類總數百分比	一三・一%	三・一%	一七・一%	一七・一%	一六・一%	一七・一%	三〇・一%
調査人員	二五	一	一	一	一	一	二八
不明	一	一	一	一	一	一	三

第六表ノ一 有業者綜合調(百分比)

分類	性別	少年期		青年期		成人期		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女
第一、哲學・心理・倫理・宗教		二・四		一・三		一・四		一・三	
第二、歴史・傳記・地誌・紀行		二・〇		一・一		一・一		一・一	
第三、政治・法制・經濟・社會・教育・軍事		一・四・六		一・九・五		三・二・四		二・七・一	
第四、理學・工學・醫學		四・九		七・八		九・四		八・八	
第五、産業				一・九		一・六		一・七	
第六、美術・技藝				三・二		三・四		三・二	
第七、文藝		一・九・五		三・二・七		二・四・二		二・七・二	
第八、運動・遊戯・娛樂				二・六		一・三		一・七	
第九、學習書		三・一・七		四・五		一・〇		三・二	
合計		一〇〇		一〇〇		一〇〇		一〇〇	
不明		一一・九・五		七・三・六		八・八・七		八・三・九	
合計		一一・九・五	二・四・四	七・三・六	四・一	八・八・七	〇・四	八・三・九	二・五

讀みたい圖書の觀察

第七表 讀みたい圖書

分類	性別	少年期		青年期		成人期		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女
第一、哲學・心理・倫理・宗教		九	六	一四	一三	五	一	二〇	一
第二、歴史・傳記・地誌・紀行		三〇	八	一〇三	九	四七	一	一六九	一
第三、政治・法制・經濟・社會・教育・軍事		三三	二	一五五	八	一四七	四	三三五	二
第四、理學・工學・醫學		一八	一	一五三	九	五三	二	二二三	一
第五、産業		一	一	一一	一	九	二	二二	一
第六、美術・技藝		五	一	三六	五	九	二	五三	一
第七、文藝		四九	一七	三三八	六	八四	一	五六一	一
第八、運動・遊戯・娛樂		七	一	四〇	一	一〇	一	五七	一
第九、學習書		三三	一	八三	一	二	一	一一九	一
合計		一六二	三三	五九三	三三	二四四	一三	一、五八三	二七
各年齢期の分類總數百分比		一〇・二%	一・九%	三六・三%	一・〇%	一六・二%	〇・六%	五三・七%	一・〇%
不明		一七	一	七五	六	三九	八	一一六	一〇

同 百分比

分類	性別	少年期		青年期		成人期		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女
第一、哲學・心理・倫理・宗教		四・四	二・八	二・三		一・二		二・〇	一・一
第二、歴史・傳記・地誌・紀行		九・六	三・八	九・五		〇・九		一・〇	一・〇
第三、政治・法制・經濟・社會・教育・軍事		一五・六	一・〇	一八・二		〇・八		一・〇	〇・六
第四、理學・工學・醫學		八・七	一・四	一・二		〇・九		一・〇	〇・六
第五、産業		〇・五	一・〇	一・〇		一・〇		一・一	一・一
第六、美術・技藝		二・五	一・〇	一・〇		一・〇		一・一	一・一
第七、文藝		三・四	一・二	三・一		一・二		三・一	一・三
第八、運動・遊戯・娛樂		三・四	〇・八	二・一		一・二		二・一	一・三
第九、學習書		二・六	一・一	一・一		一・一		一・一	一・一
合計		一〇〇	一〇〇	一〇〇		一〇〇		一〇〇	一〇〇
不明		八・八	八・二	六・六		七・三		九・四	六・〇

第三部門が第一位を占むること

圖書綜合調のうちより特に「讀みたい圖書」を抽出して、讀書興味の動向を觀察するに、特に顯著なることは、第七部門文學が、男子に於て見るに、二一・一%を占めて、第三部門の二二・〇%の下位にあることである。これは成人期に於て、第三部門三四・五%に對し、第七部門一九・七%といふ著しき差異ある結果によるもので、綜合

調においても、文學二三・二%に對し、三四・〇%を示し、他の年齢期に比類のないところより見て、前述の如く第三部門は高文受驗用讀書を示すもの多きことも推察せられるが、成人期の興味は第三部門に傾くといひ得るであらう。

次に第四自然科學の部門が、綜合調におけるよりも高率を示して、一一・六%(男一一・〇%、女〇・六%)に對し、一三・六(男一三・〇%、女〇・六%)であることも、注意せられるのである。

文學書調について

文學について特に觀察を下したのは、ひとつは前記の如く文學が最大の興味を集むるといふ、圖書館における普遍的・恒常的事實の内容を具體的に明かならめたい意向であり、いまひとつは文學の如き自由讀書の部門に最もよくその興味傾向を反映し得ると考へたためである。

第八表 文學書分類別調

分類項目	少年期		青年期		成人期		合計
	年齢		年齢		年齢		
	男	女	男	女	男	女	
愛讀書	七三	七二	六〇	五九	四二	四一	一〇一
面白かつた圖書	二一	二一	二二	二二	二二	二二	一〇六
讀みたい圖書	二五	二四	二二	二二	二二	二二	一〇七
合計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇八
現代文學	五二	五二	三三	三三	二一	二一	一三六
古典文學	一八	一八	二二	二二	二二	二二	一〇六
外國文學	一六	一六	一八	一八	一八	一八	一〇六
不明	一四	一四	一七	一七	一七	一七	一〇六
合計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇八
各年齢期の分類總數	七三	七二	六〇	五九	四二	四一	一〇一
調査人員	七三	七二	六〇	五九	四二	四一	一〇一

第八表ノ一 文學書分類別調(百分比)

分類	少年期		青年期		成人期		合計
	男	女	男	女	男	女	
現代文學	五〇・八	一〇・五	四八・四	五・四	五〇・七	〇・六	四九・二
古典文學	一〇・一	三・二	九・五	三・〇	一・〇	〇・八	九・九
外國文學	一四・五	七・三	二四・四	四・七	二・三	一・一	二二・八
不明	三・二	〇・四	三・六	一・〇	一・八	〇・三	五・三
合計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

古典文學に對する興味の微弱なること 文學書は現代・古典・外國の三部門を設けて分類した。現代文學は明治以後の日本文學並にその研究書を意味し、古典文學は徳川時代及びそれ以前の日本文學及びその研究書を意味し、外國文學は西洋文學及び支那文學並にその研究書を含む。現代文學が最も多いことはいふまでもなく、その比率五四・三%(男四九・二%、女五・一%)であり、次に外國文學が二七・二%(男二二・八%、女四・三%)を占むるに對して、古典文學は僅かに一二・五%、男九・九%、女二・六%に止り、未だ古典に對する興味の微弱なることを示してゐる。外國文學は主として翻譯物であつて主に西洋文學であり、支那文學は極めて僅かである。これによつて見るも、翻譯文學の盛んなることを知り得る。

現代文學分類別調

前記の如く現代文學は最も多數であり、かつその種類最も廣汎に互るが故に、特にその分類を試み、興味の内容を分析して、現代における傾向を察知せんとした。

第九表 現代文學書分類別調

分類項目	少年期		青年期		成人期		合計
	男	女	男	女	男	女	
小説・戯曲	26	28	30	39	36	31	275
通俗小説	3	3	4	4	5	2	127
大衆小説	1	1	2	2	1	1	73
探偵小説	4	2	5	3	1	1	22
隨筆	1	1	2	1	2	1	10
詩	1	1	3	1	1	1	7
和歌	1	1	1	1	1	1	6
俳句	1	1	1	1	1	1	6
研究評論	1	1	1	1	1	1	6
不明	1	1	1	1	1	1	6
合計	56	64	76	98	88	73	455
各年齢期の分類総数	100	100	100	100	100	100	100
調査人員	53	20	40	27	53	26	180

第九表ノ一 現代文學書分類別調(百分比)

分類項目	少年期		青年期		成人期		合計
	男	女	男	女	男	女	
小説・戯曲	36.6	39.3	36.6	50.0	35.5	31.0	27.9
通俗小説	7.0	1.3	4.1	8.8	10.3	1.0	7.7
大衆小説	2.0	1.7	2.6	2.6	2.3	0.7	7.0
探偵小説	6.4	1.7	6.5	3.4	1.1	1.1	12.2
隨筆	1.7	1.3	2.6	1.3	2.3	1.1	9.0
詩	1.7	1.3	3.9	1.3	1.1	1.1	9.0
和歌	1.7	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	6.8
俳句	1.7	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	6.8
研究・評論	1.9	0.6	1.3	0.6	1.1	0.6	6.0
不明	1.9	0.6	1.3	0.6	1.1	0.6	6.0
合計	100	100	100	100	100	100	100

本表における小説・戯曲は通常文學として考へられるものを指し、通俗小説は謂ゆる大衆文學のうち現代を取扱へるもの、大衆小説は通常時代物と呼ばれるものを指す。この區別には異論なきにあらざと考へられるが、時勢の風潮を反映するに便なるべしと考へたが故に、特にこの種の分類を試み、主として作者によつて判定を下すこととしたのである。

大衆小説第二位を占むること これによつて見れば、小説・戯曲の最も多いこと、そのうち小説が大部分を占めてゐることはいふまでもなく、次に大衆小説の多いことも明かに看取せられるのである。和歌・俳句の少きことは一驚である。な

ほ研究・評論の少きことも、文學は趣味として單に讀まれることの一證左とならうか。

愛讀雜誌調について

雜誌については、冊数をもつて算定することにした。まづ圖書に準じて分類別を試み、次に個別調査を行ひ、冊数の多きものを表示することにしたのである。雑誌は圖書と異り、その範圍自ら限定せられ、局部的偏向を示すことになる。特に「婦人・子供雑誌」の部門を設けたことは、特殊の性質を具ふるものと考へたがためである。各部門に編入せられる雑誌名は大凡そ次の如くである。

- 第一部門 思想・哲學雜誌・理想等々
- 第二部門 歴史と地理・歴史公論等々
- 第三部門 改造・中央公論・經濟往來・現代・雄辯・法學協會雜誌等々
- 第四部門 オーム・科學知識・科學畫報等々
- 第五部門 農業世界・農業及園藝・養雞の研究等々
- 第六部門 中央美術・アトリエ・カメラ等々
- 第七部門 文藝春秋・文藝・新潮・若草等々
- 第八部門 キング・朝日・日ノ出・講談俱樂部・演藝畫報等々
- 第九部門 受験と學生・受験生・考へ方等々
- 第一〇部門 婦人公論・婦人俱樂部・婦女界・令女界・少年俱樂部・少女俱樂部等々

第一〇表 學生愛讀雜誌調

分類	少年期		青年期		成人期		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
第一、哲學・心理・倫理・宗教・歴史・傳記・地誌・紀行	1	1	3	1	3	1	5	1
第二、地誌・紀行	1	1	3	1	3	1	5	1
第三、政治・法制・軍事・社會・教育・産業	5	1	5	3	9	3	14	6
第四、醫學・工業	5	1	1	4	1	1	6	3
第五、産業	1	1	6	1	2	1	7	4
第六、美術・技藝	2	1	4	2	2	2	6	4
第七、文學	3	3	1	2	1	1	4	3
第八、運動・遊戯・娛樂	1	1	4	8	1	1	6	3
第九、學習雜誌	4	1	3	3	1	1	5	3
第十、婦人・子供	4	4	7	5	2	2	11	11
合計	26	16	30	27	15	10	51	46
各年齢期の分類總數百分比	26.0%	16.0%	30.0%	27.0%	15.0%	10.0%	51.0%	46.0%
調査人員	73	77	100	106	100	71	150	100
不明	7	7	10	10	3	3	13	10

同百分比

分類	少年期		青年期		成人期		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
第一、哲學・心理・倫理・宗教・歴史・傳記・地誌・紀行	1.0	1.0	1.3	1.0	1.9	1.0	3.2	2.0
第二、地誌・紀行	1.0	1.0	0.7	1.0	1.9	1.0	3.6	2.0
第三、政治・法制・軍事・社會・教育・産業	8.0	1.0	19.0	11.0	20.0	10.0	39.0	21.0
第四、醫學・工業	8.0	1.0	1.0	4.0	1.0	1.0	10.0	6.0
第五、産業	1.0	1.0	6.0	1.0	2.0	1.0	9.0	4.0
第六、美術・技藝	1.0	1.0	5.0	2.0	1.0	1.0	7.0	4.0
第七、文學	3.0	3.0	1.0	2.0	1.0	1.0	6.0	4.0
第八、運動・遊戯・娛樂	1.0	1.0	4.0	8.0	1.0	1.0	6.0	3.0
第九、學習雜誌	4.0	1.0	3.0	3.0	1.0	1.0	9.0	6.0
第十、婦人・子供	4.0	4.0	7.0	5.0	2.0	2.0	13.0	11.0
合計	26.0	16.0	30.0	27.0	15.0	10.0	51.0	46.0
不明	7.0	7.0	10.0	10.0	3.0	3.0	13.0	10.0

第一表 有業者愛読雑誌調

分類	少年期		青年期		成人期		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
第一、倫理・心理・宗教	1	1	7	1	2	1	10	3
第二、歴史・地理・紀行	6	1	4	1	1	1	8	3
第三、政治・経済・新聞	1	1	1	1	1	1	4	3
第四、理學・工業	1	1	1	1	1	1	4	3
第五、産業	1	1	1	1	1	1	4	3
第六、美術・技藝	1	1	1	1	1	1	4	3
第七、文學	1	1	1	1	1	1	4	3
第八、運動・遊戯・娯樂	1	1	1	1	1	1	4	3
第九、學習雜誌	1	1	1	1	1	1	4	3
第十、婦人・子供	1	1	1	1	1	1	4	3
合計	11	11	11	11	11	11	44	33
各年齢期の分類總數	11	11	11	11	11	11	44	33
調査人員	5	1	3	3	1	1	15	5
不明	1	1	1	1	1	1	4	3

同百分比

分類	少年期		青年期		成人期		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
第一、倫理・心理・宗教	2.4	1.6	1.6	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6
第二、歴史・地理・紀行	1.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
第三、政治・経済・新聞	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
第四、理學・工業	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
第五、産業	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
第六、美術・技藝	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
第七、文學	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
第八、運動・遊戯・娯樂	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
第九、學習雜誌	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
第十、婦人・子供	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
合計	100	100	100	100	100	100	100	100
不明	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3

雑誌綜合調

所謂社會物が有業者に最も多いこと 愛読雑誌における著しき特色は、第三部門のいはゆる社會物、第八部門のいはゆる娯樂物が、學生・有業者を通じて、それぞれ第一位・第二位を占めてゐることである。有業者においては、第三部門が四二・〇%（男四一・八%、女〇・二%）を占めて嶄然頭角を現はし、第八部門これに次いで、二八・二%（男）を示してゐる。學生においては、第三部門二八・一%（男二七・二%、女〇・九%）、第八部門二七・五%（男二六・五%、女一・〇%）を占めて相接近し、第三部門は有業者に比し、著しく劣つてゐる。

次に學生における著しき特徴は第九學習雜誌の部門が一三・一%（男一三・〇%、女〇・二%）を示して第三位にあることである。學習雜誌は殆んど凡て受験雜誌を意味するが故に、これが學生に多いのは當然であらう。この部門は有業者においてはその半にも充たず、僅かに四・五%（男）を示して第五位にある。有業者に受験生の少きことを示すものであらう。

雑誌の場合、文學部門の少數なことは一應注意をひくところである。學生において九・六%（男八・六%、女一・〇%）、有業者において一〇・五%（男一〇・一%、女〇・四%）を示すに過ぎず、學生にあつては、第四自然科學の部門と九・六%（男九・五%、女〇・二%）の同率を示して第四位にあり、男のみの場合はその下位に位して第五位を占めるといふ状態であり、有業者にあつては、第三位を占めてゐるが、第二位の娯樂物の半にも充たない状態である。圖書において、文學の最も多い青年期有業者について見ても、青年期分類總數の二二・二%（男一一・五%、女〇・七%）を占めて第三位にあり、第二位娯樂物の半に充たぬこと依然として同様である。併しながらこれは、いはゆる文學雜誌のみの冊數であつて、これによつて文學に対する興味の程度を云々することの出来ないのはいふまでもない。最後に特に注目すべきは、第四自然科學に關する部門が相當の高率を示してゐることである。學生においては、九・六%（男）を示して、これまた第四位を占めてゐる。この事實は、既述の如く圖書の場合においてもこの部門が相當の數を示してゐるといふ事實と相俟つて、よしんば學習的傾向を窺ひ得るにしても、自然科學に對する興味の相當に大なることを示してゐると見ても大過はないであらう。

雑誌個別調

左に男女の別を分ち、冊数の多いものにつき、順次雑誌名を列記して、個別観察を試みることにした。

第一二表 愛読雑誌個別調(男)

誌名	少年			青年			成人			合計
	学生	有業者	無業者	学生	有業者	無業者	学生	有業者	無業者	
キング	八六	一一	三	一八三	五三	二八	一〇	七八	一一	四六三
中央公論	二六	一一	三	一九九	四四	二五	二五	九七	二二	三九六
改造	一〇	一一	二	七九	三七	二〇	二五	六七	一〇	一〇〇
文藝春秋	一〇	一一	二	七九	三七	二〇	二五	六七	一〇	一〇〇
経済往来	一〇	一一	二	七九	三七	二〇	二五	六七	一〇	一〇〇
日ノ出	三〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
科学畫報	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
雄辯士	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
富代	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
現談俱樂部	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
新青年	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
科学知識	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
實業之日本	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
エコノミスト	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
キネマ旬報	一〇	一一	二	五七	二〇	一三	三七	四六	一〇	一〇〇
合計	八六	一一	三	一八三	五三	二八	一〇	七八	一一	四六三

第一三表 愛読雑誌個別調(女)

誌名	少年			青年			成人			合計
	学生	有業者	無業者	学生	有業者	無業者	学生	有業者	無業者	
令女界	二五	一一	二	一八七	二五	一〇	一一	一一	一一	二二
主婦之友	二五	一一	二	一八七	二五	一〇	一一	一一	一一	二二
婦人俱樂部	二五	一一	二	一八七	二五	一〇	一一	一一	一一	二二
改造	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
キーン	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
婦人之友	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
少女俱樂部	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
中央公論	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
少女之友	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
文藝春秋	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
若草	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
婦人畫報	一六	一一	二	一一八	二二	一一	一一	一一	一一	二二
合計	二五	一一	二	一八七	二五	一〇	一一	一一	一一	二二

キングが青年學生において最高位を占むること 一覽して明瞭であり、特に説明を要しないことであるが、男子においては、キング断然多く第一位を占むことは、都市も農村もあそびと選ぶところがないのであらうか。女子において、婦人公論が第一位を占むことは流石に都市の現象らしくおもはれる。第二位・第三位は男子においては中央公論・改造、女子においては令女界・主婦之友である。令女界は女子少年期に當然著しく多いのである。



手挿入
手挿入

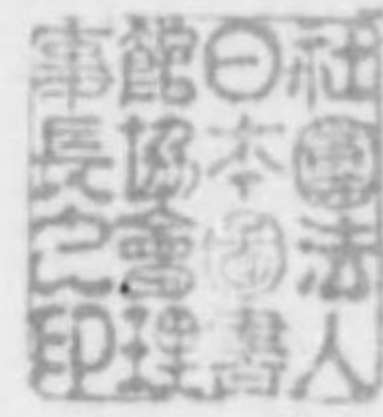
42

昭和九年三月二十五日印刷
昭和九年三月三十日發行

編輯者 社団法人 日本圖書館協會調查部
發行者 社団法人 日本圖書館協會
印刷者 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島 連 太郎
印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三 秀 舍

發行所 東京市麹町區三年町文部省内
社団法人 日本圖書館協會
振替東京四二八番

特に男子の各年齢期について見るに、少年期においてはキング・日ノ出・雄辯の順位であり、青年期においてはキング・中央公論・改造・文藝春秋の順位であり、成人期においては中央公論・改造・キングの順位である。少年期學生がキング八六の絶對多數を占め、青年期學生が同じくキング一八三の最高位を占めてゐることは興味ある現象であり、成人期學生は流石に中央公論四五がキング一〇を斷然壓倒してゐる。有業者においても同様に、少年期・青年期共にキングが第一位を占め、成人期に中央公論第一位を占めてゐる。新青年・キネマ旬報等、いはゆる現代向の特殊な雑誌が青年學生に絶對的に多いことも、明かに數の上に現はれてゐる。



手挿入
手挿入

42

昭和九年三月二十五日印刷
昭和九年三月三十日發行

編輯者 社団法人 日本圖書館協會調查部
發行者 社団法人 日本圖書館協會
印刷者 社団法人 日本圖書館協會
印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舎

發行所 東京市麹町區三年町文部省内
社団法人 日本圖書館協會
振替東京二四二番

特に男子の各年齢期について見るに、少年期においてはキング・日ノ出・雄辯の順位であり、青年期においてはキング・中央公論・改造・文藝春秋の順位であり、成人期においては中央公論・改造・キングの順位である。少年期學生がキング八六の絶對多數を占め、青年期學生が同じくキング一八三の最高位を占めてゐることは興味ある現象であり、成人期學生は流石に中央公論四五がキング一〇を斷然壓倒してゐる。有業者においても同様に、少年期・青年期共にキングが第一位を占め、成人期に中央公論第一位を占めてゐる。新青年・キネマ旬報等、いはゆる現代向の特殊な雑誌が青年學生に絶對的に多いことも、明かに數の上に現はれてゐる。

終

019.3
N77
⑦